

会 議 録

1 会議名

令和2年度第7回北諏訪区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

- ・令和3年度地域活動支援事業について（公開）
- ・自主的審議事項について（公開）

3 開催日時

令和3年2月4日（木）午後6時30分から午後7時33分

4 開催場所

上越市立北諏訪地区公民館

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 白木朝雄（会長）、高橋和彦（副会長）、浦壁隆一郎、大瀧修一、大館崇雄、久保田直美、澤海雄一、高橋礼子、中野洋子、松矢 茂、室岡由美子（欠席1名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小池係長、霜越会計年度任用職員

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【白木会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：大瀧修一委員、大館委員に依頼

議題【報告事項】令和3年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・資料No.1「令和3年度地域活動支援事業 北諏訪区の採択方針について(案)」に基づき説明

令和2年度の追加募集の採択審査の時に、子どものスポーツ活動のTシャツ等購入の提案があったが、これを補助対象にしていることについて、疑問の意見もいただいた。この件については、来年度もスポーツ団体から同じような提案の相談があった場合は、事務局が受付の段階で必要性等についてよく検討し受け付けることとし、その上で採択審査をしていただければと考えている。意見があればいただきたいと思う。

【白木会長】

では、採択方針から順に来年度の方針をどのようにすべきか意見を求める。

○採択方針：資料No.1のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る

○募集期間：4月1日(木)から5月7日(金)まで

次に周知方法についてはどうか。

【大瀧修一委員】

昨年の場合、4月1日の広報は確かに発行されたが、市は広報を月1回の発行にするという意向の中で、今年は4月1日には発行されないと思うが、周知方法が変わってくるのではないか。

【小池係長】

3月25日発行のものが4月号という形になるので4月号の広報で掲載とさせていただきたい。

【白木会長】

○周知方法：資料No.1のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る

次に補助率等についてはどうか。

【久保田委員】

傾斜配分や補助率10分の10以内というのはどういうことなのか教えていただきたい。

【小池係長】

傾斜配分は、例えば毎年補助金を貰っている団体と、今年初めて提案する団体で補助金額の配分を変えたりすることであるが、北諏訪区は今までそういったことはしていな

い。

また補助率10分の10は、事業費が10万円であれば補助金額10万円が10分の10全額ということになる。地域活動支援事業は自己資金がなくても円滑に地域活動できるようにということで、北諏訪区では今まで10分の10以内となっている。

○補助率等：資料No.1のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る

○審査方法：資料No.1のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る

○その他：資料No.1のとおり、昨年度と同様とすることで委員の賛同を得る

それでは、令和3年度地域活動支援事業の採択方針等については、以上のとおり決定とする。

次に【協議事項】自主的審議事項について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・資料No.2「自主的審議事項について（案）」に基づき説明

本日は北諏訪区で今後自主的審議事項をどういったテーマで話し合っていくかを、できれば決めていただきたい。スケジュール的には、具体的に皆さんから審議していただくのは、来年度に入ってからになってしまう。

2つともテーマにしても良いが、皆さんの意見をいただければと思う。

【白木会長】

事務局の説明に対し、意見を求める。

【大館委員】

まず、どちらにするかということもあるが、下の審議内容案が出ているので、少し具体的にお聞きしたい。私たち地域協議会では、どうしてもこの会議だけということで、具体性を持って3年間で進めるとなると、昨年作った北諏訪まちづくり振興会との連携になっていくと思う。

どのように区の魅力ある資源を発見し発信するか。インターネット等や配布物もあるが、ここで協議したものを地域協議会で実行するのはなかなか難しいと思う。どこかにお願いしないとここで出ても具体的なものができていかないのではないかと。

上段の子ども達のことについても小学校と連携を図る。下段の発見・発信は、北諏訪まちづくり振興会と連携を図るといった具体的な見通しをここで協議するのもかもしれないが、こういうことでよろしいか。

【小池係長】

大館委員のおっしゃったとおり、いろいろな地域の団体との連携というのは欠かせないと思うので、そういったことをここで話し合っただろうかと考えている。

【澤海委員】

この2つのうちのどちらかに決めるのは、なかなか難しい。地域の魅力発見・発信については、確かに北諏訪区の知名度が低いのは私も感じる。例えば、一昨年公民館主催の形でそれぞれの町内の魅力を発見するという講座があった。あれも北諏訪区内には、一応周知したがこの意図でいくとそれ以外の地域に周知を図って北諏訪区そのものを知ってもらったりすることだと思う。そうすると、例えば北諏訪まちづくり振興会で北諏訪だよりを作っていて、それを市の共生まちづくり課のほうに送り、それが各区に配られているが、そのあとどうなっているかは全くわからなくて、役員が見るだけで終わるのかとも思う。まだ編集スタッフ自身も慣れていないので、なかなか北諏訪の魅力発信というところまではしていない。先日新聞に、諏訪地区の郷土史の冊子を作製する取組が掲載された。あそこは優秀な社会科の先生がいるので非常に良いものができていると思うが、それも我々の目には触れない。確か諏訪地区公民館に行くと無料でもらえるようだが、なかなか行けないようなこともある。魅力発見・発信について、これもアバウトにはわかるがなかなか難しい課題だと思う。

今まで、自主的審議事項でやってきた消防団の存続であるとか、そういったものであれば、具体的に本当に困っていたことなので、それでも何とか話し合いになる。

上段の方も難しい。この中で議論すると言ってもなかなか難しいような気がするがいかがなものか。

【小池係長】

澤海委員がおっしゃるのもわかる。今日テーマを無理に決めずにまた新年度に入ってからでも、もう少し掘り下げて話し合ったり、テーマを考えたりということもできる。

【澤海委員】

問題提起だが、私も北諏訪まちづくり振興会とか町内会長とか、いろいろやっていると、一般の住民はそこまで思わないかもしれないが、地域をまとめたりリードしたりする人材育成が1番の悩みになってくると思っている。

それは北諏訪まちづくり振興会の中のそれぞれの専門部会の中にも割り振ってあるが、地域協議会の中でもそういったことを、同じような課題として取り上げていくのも一つかと思っている。何か悩みがあるとすればそういうことかとも思うし、この今二つある

上段の方で最近よく言葉に出ているSDGsである。そういったことは、我々国民一人一人もよく勉強していく必要があるのではないかという気もしている。すぐに北諏訪区に直結するのは難しいかもしれないが、やはり北諏訪区の人口は1500人程だと思うが、これが1000人になっても北諏訪区が、光り輝くとまでは言えないが、我々の孫の時代まで残っていく。そういったことを、我々が考えないと残っていかないだろうと思う。そういった思いもあって前回私がこれを言ったが、皆さんも考えてきて、来年度決めたらよいのではないか。

【白木会長】

要するに地域コミュニティである。地域協議会の発足当時にいろいろな勉強させていただいたが、岐阜大学に専門の先生がおられて地域コミュニティの大切さということでいろいろ講演されて勉強させていただいた。そういう人の知恵をお借りして、今、北諏訪区の現状がこうだと、こういう時にはどうしたらいいのかという部分で、ある程度アドバイスをいただければ、その方向性をきちっと委員の皆さんが掴んで、いろいろな議論をすれば見えてくるのかなと思う。

北諏訪区の人口減少はここだけの問題ではない。日本全国そうだが北諏訪のエリアの中でどのような活動が望ましいのか知恵をいただければ一番良いが、事務局で何かいい案があれば、令和3年度の4月からそういう知恵をいただいて、それについてまたいろんな議論を投げかけあって、そして答えを見つけていくというのが一番早いのかなと思うので、でき得ればお願いしたい。

【小池係長】

今年度は特に外部の講師を迎えて話をお聴きするということは実施しなかった。大学の先生をお呼びするのは、ちょっと難しいかもしれないが、来年度以降またそういう委員研修等の機会もつくれるので、皆さんにご意見いただきながら、こんな人に来てもらって話を聞いてみたいとか、ご意見があればいただきたい。

【白木会長】

東日本大震災のころ、高崎経済大学の先生に地域コミュニティの大切さについて話を聴く機会があった。その先生が東日本大震災で実際に経験をされてきた話が1番身近に感じたので、そういう話を聞く機会を作ることができるのであればお願いしたい。

【大館委員】

澤海委員から具体的な話があったが、次の会議の時に一人一人が意見を出すには、も

う少し具体的にしないとまた同じことの繰り返しだと思う。今日の話が事務局が具体的にまとめるのは難しいと思っている。次の時にきちんと話し合うならば良いが、一人一人意見を出せと言っても、なかなか出しづらいのではないかというのが私の正直な感想である。

どうすれば良いかわからないが、人材育成というキーワードや、北諏訪区のコミュニティという具体的なキーワードが出た。もう少しその辺を詰めて今日終わらないと、次回も難しいかと思う。

【白木会長】

人材育成は難しいことである。この地域にどれだけ人材となりうる人たちがいるかどうかである。そうではなくて、今現在の北諏訪区の中で1番何を考えなくてはならないのか。委員の皆さんは、各町内の実状がわかっていると思う。

北諏訪まちづくり振興会を立ち上げていただいているが、現実には事業に参加される人はごく少人数である。それだけ、北諏訪の地域の中にいろいろなことを一生懸命やっているが、なかなか浸透していかないという現実がある。何をしたら皆さんの目、耳を傾けてもらえるかが非常に難しい。

【室岡委員】

北諏訪まちづくり振興会の事務をさせていただいているが、振興会に携わっていると、北諏訪区の人たちはみんな何を考えて、何を希望しているのか。どうなのかというふう考えさせられる。一人一人に聞くわけにいかないから、何か他の地区でもやったそうだが、中学生以上の方全員にアンケートを取ったらどうかと思う。質問は何か本当にいろいろで、地域の魅力についてとか、自分たちの老後はどうするとか、この地域を良くするためにどうしたらいいか。地域の魅力は何がいいかなど全部集約して、質問を考えたらどうかと思う。そのアンケートも私達は素人だからうまく作れないと思うし、そういう統計を取ったりするプロの人もいらっしゃると思う。そういう人にお金を使うかもしれないが、それは補助金か何かで賄えると思うので、そんな話をしたらどうかと思う。北諏訪まちづくり振興会か地域協議会で、できるかどうかは分からないが。

【白木会長】

地域住民が何を考えているか、それも抽出するのは非常に難しい。

【小池係長】

他の区では住民との意見交換会をやったりはしている。

【白木会長】

アンケートをとるのは良いが、それを抽出するのは大変だと思う。

【室岡委員】

それは、素人には難しいから、まちづくりとかに関係している仕事をしている人がいるようなので、そういう人々に全部お任せするのはどうか。

その人たちは、プロだから集まったアンケートをみて、全体的に読むこともできるのではないか。

【小池係長】

地域活動支援事業は、地域の皆さんが自分たちで汗をかいてアンケートを配ったりとか、そういった活動であれば該当してくるかと思うが、すべてコンサルタントに任せるとのことだと該当しない場合もある。

【白木会長】

他に同じようなことをやった所はあるのか。

【小池係長】

名立区の住民組織では今年、住民アンケートを実施したのを見たが、その財源については聞いていない。

【室岡委員】

諏訪区でもアンケートをとったようだが、聞いたことはないか。社協だよりに載っていたような気がするが。

【高橋和彦副会長】

すごく皆さんから良い意見が出ているが、正直なところ、これを地域協議会だけの議題にするのではなく、北諏訪区に存在する団体の協力は当然だが、やはり今、室岡委員が言われたように先頭になってやる人たちが事業活動を行った時に、住民の反応が薄いのは、残念で仕方がない。次に何か新しい案を考えてとなるとそれも大変。だんだんそれがすごく窮屈になってしまう。そういうのも考えると、ここだけで収める話ではなく、年に1度でも2度でも携わる組織の人の意見を聞いていかないとこの人数だけでやろうとすると、どうしても決まりきったものにしかならない。北諏訪区独特のものを出していったほうが良いのではないかと思う。

【白木会長】

他の町内から聞くのも良いと思う。

【松矢委員】

地域協議会で自主的審議事項のテーマを決めてということだが、ここ何年か経験して年数回の集まりの中で、実際にやっているのが地域活動支援事業の審議とかが大半で、実際、皆さんで審議して結論を出して、成果を出すというところまでは、出来ていないのではないか。

【白木会長】

北諏訪区は今まで、自主的審議自体が少なかった。なかなか、ソフトの面は難しい。ハードは形が決まって答えも決まるが、ソフトはなかなか難しい。具体性をもって話をしないと、話があちこちにいつてしまう。模索していくしかないと思う。要するに町内会長がその町内の実状をよく把握しているので、本来ならそことも連携しているから、そこから知恵を出してもらいたい。

【澤海委員】

問題は、知恵は出るが実践する人がいないということである。

例えば、13区を見ると町や村の時にあった公の施設が無くなりそうだということで、それをテーマに自主的審議事項にしているという。北諏訪区はそういったものはない。ただ、将来的に今の活気のある状態を持続するにはどうしたら良いかという意識を住民が持てば良いのだが。

【白木会長】

そのための人材育成ということか。

ここで結論は出ないと思うので、それぞれ皆さん頭の中にお含みおき願いたい。

次に、「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

今、急ぎの諮問等の案件がないので次の開催日程は特にありません。協議案件ができたなら会長と相談し、開催日をお知らせする。

それから先ほど決めていただいた、地域活動支援事業の募集説明会を3月11日の午後6時30分から開催するのでご都合つく方は参加願いたい。

【白木会長】

委員の皆さんから、他に何かご意見、ご質問等があったら、お伺いしたい。

【大瀧修一委員】

地域活動支援事業の実績報告は、事業が終われば事務局へすぐに出てくるものか。そ

れとも年度末にまとめて出てきて、一括ここで審議するのかどうか。

それと、その予定は、いつごろなのかわかれば教えてもらいたい。

【小池係長】

市から地域協議会にお願いしているのは、提案された事業の採択審査のみとなっている。実績報告についての審査は依頼していない。

実績報告自体は、事業が終わり次第1か月以内に事務局に提出していただくということになっている。事例集という28区の事業を全部まとめたものを、令和2年度が終わると1冊の本にまとめて委員の皆さんにお配りする。実績報告をここで皆さんにお示しするということは今まではなかったかと思う。

【大瀧修一委員】

補助事業だと提案があって審査をして、決定して終わったら実績報告をして、それを審議するのも1つの仕事だと思っていた。審査は、事務局でやるのか。

【小池係長】

市が責任を持って行っている。

【白木会長】

地域活動支援事業については、委員の皆さんから審議して承認をいただいて、事業を実施していただいたうえで実績報告を出している。1年終わってから、実績報告をまとめたものは皆さんに報告していなかった。

【小池係長】

地域協議会だよりで、採択一覧は掲載している。

【浦壁委員】

私たちは、その団体がどういった事業をやったかは経過が何もわからなくて良いということか。今年、コロナの関係で事業を計画したが、出来なかったといったものがあるのかと思った。

【小池係長】

新年度に入ったら、今年度の事業一覧を皆さんにお示しさせていただくことはできる。

【浦壁委員】

この地域協議会は提案事業を点数化しないし、ちょっと、一歩引いたような形でただ言っぱなしみたいな会だと思う。市からの報告など何も意見もなく賛成というだけの会である。自主的審議事項のようなものは非常に困る。これは行政が考えるものである。

この会で新しく何かをするのではなく、既存のあがってくるものを、ここで審議するだけだから、地域協議会は意義がないようにも思える。

【白木会長】

地域協議会は、市長の諮問機関である。諮問機関をどのように捉えたらよいかは、それぞれ考えがあると思う。地域活性化のために、委員がそれぞれ考えなければならない部分もある。

【澤海委員】

そういったものを前からいる地域協議会委員たちも感じているところはある。そこで、実際にある程度実行できるような組織ということで、ここで自主的審議をした上で、北諏訪まちづくり振興会を作った。

北諏訪まちづくり振興会は作ったが、大きな課題は金銭面である。他の地域のまちづくり振興会みたいなどころでは、住民から会費を取っているところも多い。だが、それを最初から言うと反対されるのではないかとということで、会費は一切取っていない。地域活動支援事業の補助金を使ってとりあえず事業を行っている。地域支え合い事業などこの1年間とにかくやってみようということで進めている。

コロナの影響もあり、なかなか活動が思ったとおりにできないところもあって、参加者も固定化してあまり意図したようにはならない。少なくとも、そこに加入してもらった委員を専門部会に割り振りながら、一般住民がまずその意識を強く持つ前に、我々が強く意志を持たないと何事も始まらないだろうというのが最初にあるわけである。そういったことで、今日テーマが決まっていないが、こういった話し合いすること自体が自主審議みたいなものである。私から言わせれば、今まで誰も考えていないようなことを意見交換するわけなので、テーマを決めてやるのも良いが、必ずしも結論が出ないのはそのとおりのので、結論が出てそれをやるのはまちづくり振興会なのか、行政にぶつけるのか、ここは実行部隊ではないというのはそのとおりである。

【白木会長】

北諏訪まちづくり振興会については、本来、町内会長がきめ細かく自分の町内に対して発信していければ良い。それが本来必要であり、そうしないと住民の皆さんには浸透していかないことが多い。

【澤海委員】

ここには町内会長全員がいるわけではないから難しい。やはり話し合っても、それぞ

れ持ち帰っても、文書でなければ忘れてしまう。その意味で、北部まちづくりセンターの職員がある程度まとめてくれるのは重要だ。

北諏訪まちづくり振興会の一番の悩みは人材が足りない。いろいろ考えてもそれを周知やまとめたりするのが難しい。補助金の事務等にしても、ほとんど私と室岡委員がやっている状況だ。

【白木会長】

北諏訪まちづくり振興会のたよりも地域協議会のたよりも全戸配布である。しかし地域の皆さんがどれだけ目を通してしているのか。しっかり目を通す人は少ないのではないか。それが問題である。

そういう意識を地域の皆さんに持っていただくというのは大前提である。たよりに読むことで、そこからいろいろな意見が出たり、こんなものがあるのだろうなということがわかる。やはり意識を持たないと駄目である。いろいろなことで皆さんの知恵をお借りして、広がりを持たせるにはどうしたらいいのか、いろいろ話をすれば、結論がないかもしれないが、ある程度問題意識は拡散していくと思う。

他に何かないか。

【中野委員】

この地域活動支援事業の金額は、毎年同じなのか。

【小池係長】

各区の補助金総額は人口の増減で多少の変動はある。来年度の北諏訪区の金額についてはまだ議会前であり確定はできないが、概ね同額の予定である。

【白木会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。